

# 埋蔵文化財調査室における普及・啓発活動

Promotion Activities of Research Center for Archaeology

埋蔵文化財調査室 新里 貴之

## 1. はじめに

鹿児島大学生涯学習教育センター小栗有子准教授と調査地である徳之島伊仙町で偶然お会いすることがあり、埋蔵文化財調査室のアウトリーチ活動について報告してもらえないか、との依頼があった。

埋蔵文化財調査室では、これまでも学内の発掘調査に関わる主要な業務活動や科学研究費補助金による調査成果については、様々な形で公表してきているものの、埋蔵文化財調査室のその他の活動については、その活動史を正式にまとめたことがなかった。今後の指針を得るためにも、この機会に調査室発足当時の公文書や写真記録を手繰り、過去25年間の埋蔵文化財調査室におけるその他の活動について紹介してみたい。

まず、蛇足ながら、埋蔵文化財調査室の主要業務を以下に簡単に紹介する。

埋蔵文化財調査室は、学内における工事の際に、破壊される遺跡の緊急調査を行なう学内共同利用施設である。

鹿児島大学の郡元キャンパス・桜ヶ丘キャンパスは「鹿児島大学構内遺跡」という「周知の遺跡」であり、ほかにも遺物が出土した地点として、入来牧場、唐湊学生寮がある。郡元キャンパスは、縄文時代前期～近世の遺跡（約6000～200年前）、桜ヶ丘キャンパスは後期旧石器時代～近世の遺跡（約2万～200年前）である。入来牧場は縄文時代晩期の遺跡（約2500年前）、唐湊学生寮は縄文時代後期（約3500年前）の遺跡である。これらのキャンパスでは、建物の新築工事や配管工事などがあると、事前に埋蔵文化財調査室が調査を行なうことになっている。

埋蔵文化財調査室が1985年に設置されて以来、25年間に49件の発掘調査と34件の試掘調査、289件の立会調査を行ってきた。発掘調査は、基本的に大規模で長期間にわたるもので、2～10カ月間の調査を年間1～4箇所行なう。試掘調査は発掘調査の前に遺跡が良好に残っているかどうかを確認するもので、長くて1カ月程度で年間2箇所程度行なう。立会調査は、配管・樹木移植などの小さな工事で、基本的に鹿児島市教育委員会の職員が行なうことに

なっているが、埋蔵文化財調査室の室員がオブザーバーとして立ち会う。年間10～20箇所程度、1箇所につき1日～1週間行なわれる。

これらの調査成果は、年次報告として『埋蔵文化財調査室年報』1～25（1985～2010年度）に掲載してきた。一方、『鹿児島大学構内遺跡調査報告書』第1～6集（1993・2005～2010年度）は、発掘調査の正式報告を収録している。

以上のように、埋蔵文化財調査室の基本的な業務は、発掘調査・試掘調査・立会調査などの遺跡の調査、発掘調査報告書と年次報告書の刊行である。発掘調査などの業務については、先述の刊行物を参照いただき、今回はこれらを除いた業務について、これまでの歩みを簡単に紹介する。

## 2. 遺跡説明会（表1）

遺跡説明会は、鹿児島大学構内遺跡を一般向けに公表することのできる機会のひとつであり、普及・啓発活動では最も古い段階から行なわれている。ただし、歴大な数の発掘調査を行なっても、全て保存状況が良好な遺跡であるとは限らないことや、遺跡の中心部ではない場合、その様相が不明確であることから、毎年行なわれるわけではない。

最初の遺跡説明会は、桜ヶ丘キャンパスの医歯学研究科棟4地点（1987年度）における発掘調査であり、弥生時代前期～中期の竪穴住居跡などが検出されたことから、その成果を病院職員や患者にむけて説明会を行なっている（写真1）。



写真1 87-3 遺跡説明会

表1 遺跡説明会

日付	場所・調査	内容	対象者
1987.10.22	87-3 桜ヶ丘：医学部臨床研究棟増築地における発掘調査	弥生時代前期～中期の住居跡	病院職員・患者
1990.12.21	90-4 郡元：教育学部附属小学校プール上屋建設予定地	古墳時代の住居跡	附小生徒
1997.10.14	97-1 郡元：工学部校舎新築工事に伴う発掘調査	弥生時代中期の水田跡	学内職員・学生
2000.7.22	99-1 郡元：文系総合研究棟建設に伴う発掘調査	古墳時代後期の集落跡	一般
2001.6.23	2000-2 郡元：保健学科校舎建設に伴う発掘調査	後期旧石器時代～縄文時代草創期の落とし穴	一般
2002.7.20	2002-1 郡元：郡元理工系総合研究棟建設に伴う発掘調査	弥生時代の前・中期の水田跡	一般
	2001-2 郡元：理学部改修工事に伴う発掘調査	弥生時代中期の環濠・古墳時代後期の集落跡	
2003.6.29	2002-2 郡元：VBL 棟建設に伴う発掘調査	弥生時代～古墳時代の河川跡	一般
2003.7.11			附中生徒
2006.8.12	2006-2 郡元：農学部1号館改修工事（農学部中庭）に伴う発掘調査	江戸時代・明治時代の水田跡	一般
2007.12.15	2007-2 郡元：共通教育棟2号館改修工事（稲盛アカデミー）に伴う発掘調査	古墳時代後期の集落跡	一般
2008.7.26	2008-1 桜ヶ丘：中央機械棟改修工事に伴う発掘調査	縄文時代草創期の遺跡	一般
2009.6.11	2009-1 郡元：教育学部附属中学校増築・改修工事に伴う発掘調査	古墳時代の遺跡	附中生徒

一般市民対象の遺跡説明会は、文系総合教育研究棟の建設地において2000年度に初めて行なわれた。古墳時代の大規模な集落跡が検出され、竪穴住居跡が何度も建て替わられている様相が判明した。遺跡の新聞への紹介や各調査・研究機関、市町村の教育委員会へFAXで連絡等を行なうことで、大勢の方々が来跡した（写真2）。同様相の遺跡を



写真2 99-1 遺跡説明会

もつ説明会は、共通教育棟2号館（稲盛アカデミー）地点（2007年度）でも行なわれているが（写真3・4）、同地点では、鹿児島大学考古学研究室の大学院生・学生主体で遺跡説明会を行なわせる初の試みであった。事前アンケートの実施・公表、パネル・遺物展示、図版解説、遺跡解説など、学生教育の一環として開催したものである。この状況と内容については、大学院生によって専門雑誌に公表されている（眞邊彩・大屋匡史・河野祐次・榊原えりこ 2008「双方



写真3 2007-2 遺跡説明会



写真4 2007-2 遺跡説明会

向性の遺跡説明会を目指して：鹿児島大学構内遺跡説明会における取組み」『考古学研究』55-2 考古学研究会 20-23 頁）。



写真 5 2002-2 遺跡説明会 VBL

その後も郡元キャンパスの発掘調査を中心に、遺跡説明会が行なわれている。弥生時代中期の集落を囲った環濠と弥生時代前・中期の水田跡が隣接して検出された理学部1号館中庭と理工系総合研究棟地点（2002年度）では、古墳時代の集落跡をさかのぼる弥生時代にも既に、集落とその生業を支える水田があったことを示し、郡元キャンパスを東西に横断する弥生時代から古墳時代の大規模な河川跡が検出されたVBL棟地点（2003年）では、河川内に堰（せき）を構築して周辺の水田へ取水するための施設や、河への祭祀行為の痕跡などが確認されている（写真5）。江戸時代の水田跡が検出された農学部1号館中庭地点（2006年）では、耕地面積の狭い薩摩藩において、生産地へと大規模な土地改良を行っていた実態を示すものである（写真6）。

桜ヶ丘キャンパスの保健学科教育棟地点（2001年）では、後期旧石器時代～縄文時代草創期の落とし穴が検出され、このシラス台地一帯がこの当時、狩場だったことを示しており（写真7）、中央機械棟西側地点（2008年）では、日本列島で土器が出現したところ（縄文時代草創期）の土器が出土している（写真8・9）。同地点においても鹿児島大学学生・大学院生を主体として遺物の説明をしてもらっている。

これらの成果があった調査地点の遺跡説明会のほとんどが、発掘調査中のウィークデーを除いた土・日で行なわれる。

このほか、教育学部附属小学校・中学校の敷地内を発掘調査している際には、遺跡調査中に見学させてほしいとの要望があり、社会科などの授業の一環として小規模な見学会を開催することもある（写真10・11）。



写真 6 2006-2 遺跡説明会



写真 7 2000-2 遺跡説明会



写真 8 2008-1 遺跡説明会



写真 9 2008-1 遺跡説明会



写真 10 附小遺跡説明会



写真 12 99-1 体験発掘小学生



写真 11 附中遺跡説明会

鹿児島大学構内遺跡は、全国的・鹿児島県内にトピックとなる遺跡を擁していることから、遺跡説明会は、これまでに 12 地点 12 件開催している。その告知方法としては、ポスターやチラシ、新聞の催し物欄や、鹿児島県内の博物館・研究機関への FAX 通信、埋蔵文化財調査室のホームページ上などである。調査時の遺跡説明会のほか、講義や

授業の一環として遺跡説明会を行なうことがある。また、教育の一環として、鹿児島大学大学院生・学生を主体として遺跡説明会を開催させる場を設けるなど、試験的試みも行なっている。

### 3 . 体験発掘 (表 2)

メディアを賑わせることもある遺跡の発掘であるが、埋蔵文化財調査室が主催して、学内でも発掘中に遺跡の体験発掘を行なっている。ただし、発掘調査現場は、足元が崩れやすい、滑りやすい、地表面との高低差などの危険があり、発掘道具も刷毛やスコップだけでなく、ねじり鎌や鍬などの刃物や釘なども使用するため、比較的広大な調査が行なわれる場合にのみ、細心の注意を払って慎重に対応しながら行なっている。

体験発掘は、2000 年度に行なわれた文系総合教育研究棟の建設地の発掘調査において夏休みの小中学生を対象として行なわれたのが最初となる (写真 12)。ほかにも遺跡説明会が開催されるような成果のあった遺跡を中心に、6 地点 9 件の実績がある。

表 2 体験発掘

日付	場所・調査	内容	対象者
2000.5.9 2000.8	99-1 郡元：文系総合研究棟建設に伴う発掘調査	古墳時代後期の集落跡	鹿女短学生 小学生
2002.4.1	2001-2 郡元：理学部改修工事に伴う発掘調査	弥生時代中期の環濠・古墳時代後期の集落跡	小学生
2003.7.25	2002-2 郡元：VBL 棟建設に伴う発掘調査	弥生～古墳時代の河川跡	小学生
2006.10.2	2006-2 郡元：農学部 1 号館改修工事（農学部中庭）に伴う発掘調査	江戸～明治時代の水田跡	鹿女短学生
2007.7.20	2007-1 桜ヶ丘：中央診療棟新営その他工事に伴う発掘調査	弥生時代の遺跡	鹿大学生
2007.8.21 2007.10.22 2007.10.31	2007-2 郡元：共通教育棟 2 号館改修工事（稲盛アカデミー）に伴う発掘調査	古墳時代の集落跡	小中学生 鹿女短学生 鹿大学生



写真 13 鹿大生体験発掘



写真 14 鹿女短生体験発掘

発掘調査が夏休みや春休みとタイミングがあった場合、1日だけ参加するような場合が多い。小中学生では夏休みの自由研究の一部として利用されているようである。遺跡の説明と基本的な掘り方を教え、遺物を掘りだす楽しみを味わってもらおう。また、鹿児島大学学生が共通教育科目の講義の1日を使って参加する場合もあり(写真13)、鹿児島女子短期大学の学生も受け入れてきている(写真14)。鹿児島大学の考古学研究室の発掘調査実習地として受け入れることもあった。

これまでも体験者が一様に驚くのは、大学キャンパス敷地内の地中に遺跡が包蔵されていることである。鹿児島大学構内遺跡の体験発掘を企画できる部署は学内で埋蔵文化財調査室のみであることから、成果のある遺跡調査の際には、より積極的に参加者を募っても良いのかもしれない。

#### 4. 公開講座等(表3)

比較的新しい試みとして開始した業務であるが、中学生から一般向けの、できるだけ専門用語を廃した比較的易しい公開講座を行なっている。鹿児島大学構内遺跡のデータをもとに、鹿児島大学構内遺跡の紹介とその特性を述べたものや、調査室員個人の研究を公開するものである。人文系総合教育研究棟で100名ほどの教室を借りて行なっている。配布資料、器材など運営費から捻出して行なっている。講座修了後に参加者全員に室長から手渡す「修了証」も自作でありながら、なかなか好評である。

2007年度、共通教育研究棟2号館(稲盛アカデミー)地点で、古墳時代の集落跡を発掘調査中であったため、そのタイミングで公開講座を行なうことになり、『鹿大キャンパスで遺跡を探る：土器や石器をさわってみよう』と題して2回に分けて行なった。1回目は室員2名で郡元キャンパスの代表的な遺跡を時代別に紹介し、南九州において鹿児島大学構内遺跡がどのように位置づけられるのかを講演した。そのうえで、その1週間後、遺跡の体験発掘を行ってもらい、その価値を実感してもらおうとの試みであった(写真15～18)。

2009年度には室員2名で、鹿児島県内の南西諸島で行なっている個人的研究の一部を講演した。講座名は『原始古代の南島墓』で、「種子島小浜(おばま)遺跡発掘調査報告」と「徳之島トマチン遺跡について」と題して埋葬遺跡の紹介を行なった。

表3 公開講座等

『鹿大キャンパスで遺跡を探る：土器や石器をさわってみよう』	
2007.10.20	新里貴之「鹿児島大学構内遺跡：郡元団地の代表的遺跡」 中村直子「南九州の弥生時代・古墳時代」
2007.10.27	体験発掘：郡元：共通教育棟2号館改修工事(稲盛アカデミー)地点
『原始古代の南島墓』	
2009.8.8	中村直子「種子島小浜遺跡発掘調査報告」 新里貴之「徳之島トマチン遺跡について」
『南日本先史時代の生活』	
2010.9.11	寒川朋枝「石器の観察からわかること」 中村直子「先史時代の食べもの」 新里貴之「洞穴発見の縄文時代人骨」
陶芸教室・土器製作・土器焼成実験(桜ヶ丘：新病棟建設地点)	
2010.10.10	陶芸教室
2010.10.24,11.21	土器製作
2011.1.22-23	土器焼成実験

## 鹿大キャンパスで遺跡を探る —土器や石器をさわってみよう—

鹿児島大学のキャンパスは遺跡です。キャンパスを歩いていると、地面から土器が顔をのぞかせているのを発見することがあります。発掘調査や出土品はどのように調査され、研究されるのでしょうか？地中に埋もれたキャンパスの歴史をたどってみませんか。この講座では、鹿大キャンパスに埋もれている遺跡を解説するとともに、土器や石器などの出土物の整理作業を体験します。

開催日時 平成 19 年 10/20 (土)・10/27 (土)  
14:00 ~ 16:30

開催会場 鹿児島大学総合研究棟 (文系) 203号室

担当講師 埋蔵文化財調査室 新田 栄治 他

受講対象 中学生以上の学生および社会人

受講料 無料

募集人数 20人

申し込み先 鹿児島大学埋蔵文化財調査室  
Tel 099-285-7270  
Fax 099-285-7271  
e-mail maibun@kuas.kagoshima-u.ac.jp

写真 15 2007 公開講座チラシ



写真 16 2007 公開講座

小浜遺跡は中世の埋葬遺跡で、きつく体を折り曲げた姿勢で人骨が検出され、また、砂丘における遺跡立地のため、身体の曲げ具合まで分かる、非常に良好な状態の全身骨に参加者は驚いていた。

トマチン遺跡は、縄文時代晩期末～弥生時代前期ごろの埋葬遺跡で、多量の礫とサンゴを用いた石棺で埋葬されており、その石棺内が三層構造となって各層に埋葬されてい



写真 17 2007 公開講座



写真 18 2007 公開講座・体験発掘

る状況が参加者の興味を引いた。

2010 年度には室員 3 名となり、『南日本先史時代の生活』と題した公開講座を行なった。石器、道具や人骨の分析、特殊環境の人骨調査などを紹介した (写真 19・20)。

「石器の観察からわかること」では、鹿児島県で出土した 1cm 長の細石器とよばれる小さな石器の表面を金属顕微鏡で詳細に分析し、使用のために傷ついた微細な痕跡のパターンを調べることで、何に使用しているかを調べるという研究の紹介である。

「先史時代の食べもの」では、土器・石器・木製品・貝製品などの道具の組合せだけでなく、人骨の安定同位体分析を通じた食生活の復元も紹介した。安定同位体分析では、室員 2 名の家族の髪の毛を使った分布図も用いて、日常の食生活の中で主に植物性タンパクと動物性タンパクのどちらに依存しているかを分析した表では、明らかな違いがあったことに注目が集まった。

「洞穴発見の縄文時代人骨」では、沖永良部島の洞穴奥部で、人が入れないような場所で発見された人骨の紹介を

## 公開講座 南日本先史時代の生活

寒川朋枝

「石器の観察からわかること」



中村直子

「先史時代の食べもの」



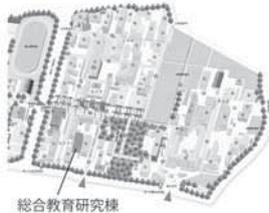
新里貴之

「洞穴発見の縄文時代人骨」

日時：2010年9月11日(土) 13:30～16:30(13:00開場)

場所：鹿児島大学郡元キャンパス総合教育研究棟 203号室

対象：中学生以上の学生および社会人(先着50名まで)



受講料：無料

【連絡先・申し込み先】

鹿児島大学埋蔵文化財調査室

中村・新里・寒川

maibun@kuas.kagoshima-u.ac.jp

電話：099-285-7270

FAX：099-285-7271

総合教育研究棟

写真19 2010公開講座チラシ



写真20 2010公開講座

行なった。人骨は全身骨が全て良好に残っており、生活の痕跡もなく、埋葬の痕跡もない不思議な状況で発見された。年代測定結果は縄文時代人であることが分かり、なぜここにいたのかという質問が多かった。テレビ朝日スーパーモーニング主催の調査であり、そのテレビ映像を流した。

ほかにも、2010年度は、桜ヶ丘新病棟の発掘調査中に廃棄される土(チョコ層とよばれる後期旧石器時代～縄文時代草創期の土壌)を再利用して、陶芸教室を行なった。こ



写真21 陶芸教室



写真22 土器焼成実験

れは遺跡見学会と同様に、ポスターやチラシ、埋蔵文化財調査室のホームページや関係機関・関係者への電話・FAXなどによって広く参加者を募った。埋蔵文化財調査室員には、焼物をつくる技術はないため、『梶子窯』の有島氏を外からの講師としてむかえ、参加者は思い思いの焼物を作成した(写真21)。また、先史時代の土器を製作し、土器用の土から作り上げ、焼成温度、焼成時間を記録する科学的焼成実験も2日間を使って行なっている(写真22)。やはり焼物は、完成後も日常的に使えることもあってか、かなり参加者が多い。

以上のように、公開講座については、室員の個人的研究の披露の場にもなっている。数年に1度のペースで、鹿児島大学構内遺跡の紹介を加えていく必要はあるだろう。また、廃棄される土を再利用した土器焼成実験など、大学内資源を有効活用した催し物などは、今後、埋蔵文化財調査室の主要活動のひとつとして、位置づけていっても良いかもしれない。

## 5. 資料提供

鹿児島大学構内遺跡から出土した遺物や遺跡の写真ネガを貸し出すこともある。現在、重要遺物や完形に近い見栄えの良い遺物のほとんどは、総合研究博物館常設展示室に貸し出し、展示している。また、農学部100周年記念展示室では、江戸時代や鹿児島大学の前身である鹿児島高等農林学校(1909～1952年)、そして鹿児島大学前半期(1949～1974年)の遺物を中心に、農学部敷地内から出土した遺物を展示している(写真23)。ほかにも中央図書館1階にある新制国立大学60周年記念事業の鹿児島大学歴史展示室では、図書館の増築の際に出土した古墳時代の土器のセットを展示している(写真24)。

ほかにも学内の広報雑誌に貸し出すこともあるが、以下では主に公的機関の外部依頼による遺物などの貸し出し状況について述べる。

1996・1997年度に、鹿児島市立ふるさと考古歴史館創設・開館記念に当たって、鹿児島大学構内遺跡郡元キャンパスの古墳時代集落跡や河川利用状況などの写真フィルムや出土遺物(土器・須恵器・石器・鉄器)などを貸し出したのを皮切りに、鹿児島大学構内遺跡の古墳時代集落跡が広く認識されるようになり、その後も同館企画展だけでなく、鹿児島県立黎明館の企画展などに貸し出している。

桜ヶ丘キャンパスの遺物としては縄文時代最初期の遺物



写真23 農学部展示室



写真24 中央図書館展示室

表4 資料提供

事項	貸出期間	内容	貸出場所
ポジフィルム	1996.10.1-12.31	古墳時代集落跡・弥生時代後期～古墳時代の堰	鹿児島市立ふるさと考古歴史館・常設展示の解説映像で使用
遺物・ポジフィルム	1997.4.17-5.22	弥生～古墳時代の土器・須恵器・石器・鉄器	鹿児島市立ふるさと考古歴史館・開館記念企画展
遺物	1998.2.6-3.10	弥生～古墳時代の石庖丁	鹿児島市立ふるさと考古歴史館・企画展「銅鐸」
遺物	2000.1.10-2001.3.15	縄文時代草創期の石鏃	鹿児島県立黎明館・企画特別展「縄文のあけぼの：南九州に花開いた草創期文化」
ネガフィルム	2003.1.16-8.19	弥生～古墳時代の木製品	山田昌久(編)『考古資料大観 8 木・繊維製品』小学館 2003年
遺物	2003.10.8-12.6	古墳時代の土器	鹿児島市立ふるさと考古歴史館・特別企画展「南九州古墳の謎：埴輪は語る」
ポジフィルム	2004.7.30-10.20	後期旧石器時代～縄文時代草創期の落とし穴	下関市立考古博物館・企画展「定住のはじまり：1万年前の社会」
ポジフィルム	2006.4.5-8.16	古墳時代住居跡・古墳時代の軽石製品	邪馬台国探検隊(編)『邪馬台国への旅』東京書籍 2006年
遺物	2009.9.1-11.20	古墳時代の土器	鹿児島県立黎明館・企画特別展「古代のロマン北南：三内丸山 vs 上野原」
遺物	2009.8.31-12.21	弥生～古墳時代の玉類	宮崎県立西都原考古博物館・国際交流展「玉と王権」
遺物	2010.11.16-2011.3.31	縄文時代中期の楔状耳飾転用品	鹿児島県上野原縄文の森・企画展「古代アクセサリーの魅力」

として石鏃や落とし穴の写真フィルムなどを県内博物館だけでなく、下関市立考古博物館の企画展にも貸し出している。あまり多くはないが郡元キャンパスにも縄文時代中ごろの遺跡が存在しており、その遺跡で出土した楔状耳飾りが破損した後、垂飾品に再利用された製品も鹿児島県上野原縄文の森の企画展に貸し出された。

また、構内遺跡の製品が、書籍で紹介されることもある。小学館刊行の『考古資料大観 8 木・繊維製品』（2003年）では、郡元キャンパスの河川跡から出土した弥生～古墳時代の木製品である鏃状製品と容器が写真とともに紹介されている。東京書籍から刊行された『邪馬台国への旅』（2006年）では、郡元キャンパスの古墳時代集落跡の写真と、同キャンパスから出土した軽石製品が掲載されている。ただし、鹿児島大学構内遺跡は、邪馬台国の場所として想定されたことはないため、そのような表現のもとで使用しない旨、書面で承諾していただいた。

ほかにも、学内外から個人研究・学会発表・論文作成・卒論・修論のため、遺物の写真撮影、遺物の科学分析などが行なわれることも比較的多い。

以上のように、遺物・写真ネガの貸し出しなどは、郡元キャンパスの古墳時代の大型集落跡で出土したもの、桜ヶ丘キャンパスの後期旧石器時代～縄文時代草創期の古い時代のものを、県内の博物館施設に貸し出すことが多い。特

に重要な遺物については、保存処理・保管状況などを適正に行ない、いつでも貸し出せるような条件下にしておくことが重要であろう。

## 6. おわりに

以上のように、埋蔵文化財調査室では、主要業務として、1年間の大半を屋外における発掘調査地で費やしており、その他の期間は『発掘調査報告書』や『年報』の作成を行っている。今回、紹介した遺跡説明会・体験発掘・公開講座・遺物貸出などの普及・啓発活動は、その間隙を縫って行なわれる活動の一部である。公開講座などはようやく軌道にのってきた部分もあり、まだ至らない部分もあるだろう。アンケートを参加者に募るなど、主催者と参加者の双方向的な意見交換による質の向上も今後必要となってくると思われる。特別に予算措置されていなくとも低予算的な地道な活動は継続可能であるし、ある程度予想はついていても、掘らなければ実際には何が出てくるかわからないという不確定要素の多い発掘調査に依存した活動では、一見地味ではあるが、現状が最も適しているのかもしれない。今後も「鹿児島大学構内遺跡」の一般的普及・啓発活動を目指して、より合理的な活動の模索を行なっていきたい。